

研究職員から一言

道北支場 資源科 實吉 隼人

〒077-0225 増毛郡増毛町暑寒沢 1265-1

TEL 0164-53-2382, FAX 0164-53-3640

E-mail: saneyoshih@fishexp.pref.hokkaido.jp

平成 17 年に北海道職員として採用され、増毛町にある道立水産孵化場道北支場へ配属されました。

採用以前は、北海道大学水産学部の育種生物学講座（旧植物学講座）に在籍し、学部から修士課程の 3 年間はコンブ目植物やヒバマタ目植物といった大型褐藻類の根の部分（付着器）の形態形成について研究を行っていました。この研究では 7 種の大型褐藻類を培養し、付着器の形成過程や細胞構成の観察から付着器の発達段階を明らかにし、その順位を示しました。卒業後の 1 年間は研究生として講座に残り、函館市の産学官連携促進事業におけるガゴメコンブの陸上栽培や粘性多糖類（フコイダン）の抽出、定量に関する研究に携わっていました。

現在は道北支場の資源科職員として、サクラマス市場調査や保護水面河川調査、サケの鱗による年齢査定などを担当し、放流事業の効果の確認や来遊量の予測、資源評価に関する基礎データの収集・整理を行っています。平成 19 年からは、秋サケ資源管理モデル構築試験として平成 16 年に暑寒別川と頓別川で耳石に ALC 標識を施したサケが 3 年魚として回帰し始めます。この試験では北海道の各沿岸に来遊し、漁獲されているサケが実際にはどのような資源なのか（放流場所や放流年など）を明らかにし、間引き量や遡上量の推定を行おうとしています。市場や河川での標識魚の調査、耳石の採取や読み取りなど、忙しくも新鮮な日々が続きます。



図 1 保護水面調査の様子

（投網と電気漁具を使って調査します）

道北支場は約 2000 万尾のサケ稚魚を飼育し、留萌管内におけるサケの種苗生産の多くを担っています。秋に暑寒別川、信砂川、遠別川でサケの捕獲・採卵が行われます。そうして得られた受精卵を道北支場に収容し、立体式孵化器の中で管



理します。冬の間、次々と浮上し出す稚魚を池へ放養して飼育します。こうして成長した稚魚は、春に留萌管内の河川に設置された二次飼育池や海中飼育生簀へと運び、2 週間ほど飼育された後に放流されます。稚魚の池出しや池替

え、寄生虫駆除のための塩水浴、移出などは職員総出の大仕事です。こういった増殖の仕事は魚に一番近づける仕事だと感じています。しかし、サケが道北支場にいる期間は、卵の時期も含め約 7 ヶ月と限られています。水産孵化場の研究職員として基礎を築くチャンスなので、積極的に多くのことを学び、吸収していきたいです。

また、本場や他支場の方々とともに、資源評価や増殖に関わる研究全般を担うサケ資源評価部会にも参加しています。ここではサケ放流効果検証試験を担当していて、昭和 48 年（1973 年）に道北支場が設立されて暑寒別川へのサケ稚魚の放流が行われるようになってから現在までの放流・回帰状況をまとめ、道北支場の設立によってサケの回帰数が増えた事を明確に示そうとしています。



図 2 暑寒別川でのサケ捕獲の様子

（9 月中旬から 10 月下旬にかけて行われます）

まだまだ分からない事ばかりで失敗の多い毎日ですが、学生時代には経験してこなかった事や、この孵化場に勤務しなければ経験できない事も多く、楽しく過ごしています。日常の業務や調査、部会などでの経験や勉強を積み重ね、サケ・マスを始めとした北海道の水産資源の増大や水産業の発展に貢献していきたいと思っています。

（さねよし はやと：道北支場研究職員）